



むっごろ

春、そして桜吹雪



12

1986.4

「専立寺」のしだれ桜

樹齢130年。毎年春、3月20日
ごろからほころび始め、4月初
めには満開。ひと足早く桜吹雪
を楽しませてくれる。

運輸大臣→衆院運輸委員長

山下徳夫氏

大役ごころうさま
骨休めの間もなく

とにかく、まあ、大変な時期の運輸大臣でした。国鉄再建の分割民営化、三光汽船の倒産、日航機墜落事故……。本当にごころうさま。そして、またまた衆院運輸委員長への就任。

「自分で投げたボールを、また自分が走って捕まえるようとはねえ。大臣を辞めてしばらくは閑職のまま充電するつもりだったが、金丸幹事長のたつての頼みだし、引き受けざるを得なかった」と苦笑まじりに語る。

運輸大臣は一年二ヶ月を務め、引き続き運輸行政。

今国会に提出されている百法案の中には、国鉄関係八法案、しかも六法案が新法であり、いずれも与野党激突が避けられない対立法案。

「大臣就任中に佐賀空港が実現しなかったのが残念。今後とも側面から応援していきたい」と感想。

通産政務次官

大坪健一郎氏

輸出型から共存型へ
貿易摩擦取り組む

衆院議員のころ外務、建設両委員会、安全保障特別委の各理事のほか、労働官僚出身を買われて、党労働部会長、党労働局長と労働畑が続いたが、新分野の貿易摩擦問題に取り組む。米国視察体験も豊富。衆院当選二回、参院当選二回。六十歳。

「通産、大蔵、農水省は政務次官が二人います。役所の受け持ち範囲が広いので衆参両院から各一人ずつ出して分担しているわけです。私のところは個性味あふれる渡辺美智雄大臣。大いに補佐して、真つ際の貿易摩擦問題に取り組み、今後の日本の繁栄のために走り回ります。経済大国日本はアメリカやヨーロッパ、東南アジア諸国、社会主義の国々とも平和に共存していくために、勤儉貯蓄の体質を考え直さなければならぬ時期にきたと思います」

国際派次官大坪氏には東奔西走の活躍を。

農水政務次官

保利 耕輔氏

望んでいたポスト
誠心誠意仕えたい

衆院議運委員の前は、党農水局長、党農林部会副部長、労働資源部等職務に携わってきた農政通。五十六年には一ヶ月間にわたって米国農業の視察をしたこともあり、農水政務次官は望んでいたポスト。

「農林水産業を取りまく情勢は、非常に厳しいものがあります。責任の重さを痛感しています。就任早々から日米漁業交渉問題があり、木材製品の関税引き下げ交渉、日ソ漁業交渉などが相次ぎギリギリ舞いでした。羽田大臣に誠心誠意お仕えして、ご指導もいただきながら勉強したいと思っています」

慶大法学部卒、日本精工入社。四十九年からフランス日本精工社長を務めていたが、父茂氏の死去に伴い、五十四年衆院選に初当選。当選三回、五十一歳。郷土発展のためにも活躍を期待したい。

古賀氏うれしい入閣

保利・大坪氏は政務次官

北海道・沖縄開発庁長官

古賀 雷四郎氏



「前回のようなくともあるしね。ゲタを履くまで信じられなかった。やっぱり大臣のいすはいいもんだね。中曽根第二次

改造内閣で、待望の大臣ポストを手中に納めた古賀氏の、偽らざる心境だった。五十九年十月の組閣では「絶対確実」といわ

五十九年の山下運輸大臣に続いて、佐賀県からまた大臣が誕生した。鳥栖市出身で県人会顧問の参院議員（当選）三回、比例代表制）古賀雷四郎氏（七〇）が、北海道・沖縄開発庁長官のポストに。佐賀県選出の大臣は、古賀氏が六人目。一方、運輸大臣を三塚氏にバトンタッチした山下徳夫氏（県人会顧問）は、衆院運輸委員長に選任された。さらに農水政務次官に保利耕輔衆院議員、通産政務次官に大坪健一郎参院議員（いずれも県人会顧問）が就任し、県選出国会議員の活躍が光っている。

れながら、待機だけに終わっていた。

「前に北海道開発調査特別委員長を務めたし、北海道の事情はよくわかってる。沖縄も兼務することになったが、日本の北と南、自分の持てる力を発揮して国政発展のためにベストを尽くします」との抱負。

また佐賀県庁を訪れた時も、記者会見に応じて古賀長官は「県内景気は停滞さみ。幸い、これまで公共事業専門にやってきたので、その経験を生かして蔵木ダム、嘉瀬川ダムの早期実現、テクノポリスの推進など県政をバックアップしていきたい」と述べた。

「剛毅朴訥（こうきぼくとなつ）を座右の銘にする素朴な人柄。温和な性格で与野党を通じて知己が多く、名前は雷四郎だが、雷を落としたのを見たことがない」との評。建設省の技術畑で、河川局長から建設技監と技術職の最高ポストまで上り詰めたが、技術者らしくコツコツと仕事に取り組み政策マンである。

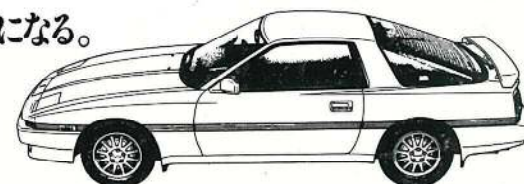
参院当選三回。「緑あふれる豊かな社会」が公約。福岡、佐賀のためにも活躍を期待したい。

光放つ県選出国会議員

1986年、GTがエグゼクティブの顔になる。

スープラ、それは至上を意味する。

SUPRA



スーパ・セリカ・カムリ・カローラ・カローラ・タウンエース福岡県総販売店
信用で売る店
トヨタカローラ 福岡株式会社

本社
福岡市中央区長浜2丁目1番5号 ☎092-712-7111(代表)

元中学校校長さん。町教育長を務め、町長になった。現在、二期目半ばでまる六年。温厚篤実。町民の信望を集めている。そこで当面の町政の課題を。

「過疎化が困る。これは頭が痛い。回復の道を探っているが、有効打が見つからない。企業誘致といっても、この不況下では希望薄。ただレジャー関連で打診はあっている。六十一年度は観光振興策を具体化するために調査に入ることにしている」

相知町は炭鉱で栄えた時代があった。今は見るべき産業はないが「農業を基幹にしていける。基盤整備の土地改良事業を進めている。また、香りの町づくり」

過疎化防止に有効策探る 唐津―佐賀に準高速道を



相知町田浦清雄町長

としてスグチ、ミヨウガ、サンショの栽培が二年目に入った。名産づくりはますます盛んになり、たい。

教育、文化行政は濃密だ。学校増設もほとんど終わり、町民運動公園と社会体育館、生活改善センター建設を急ぐという。「最大の課題は唐津―多久インター間の準高速道路の実現です」と頭は町政のことではない。

佐賀県人会にひとこと 唐津から相知までは車で十五分。町内には見事な滝、鶴殿（うどの）石松、佐里温泉はじめ多くの観光地があります。日帰りでも十分に楽しめるので、ぜひおでかけ下さい。

航空記者会に加盟しているので航空各社から毎月の機内誌が届く。手にするたびに、ひっかかることがあった。例えば全日空の機内誌「翼の王国」である。毎号、日本列島各地の名所や特産を特集している。興味深いところが、ここ数ヶ月を注意深く見てみると、佐賀が抜けている。昨年十二月号では「どうしてでも取り寄せてみたい美味珍味」、ことし二月は「雪見酒―全国の銘酒」、三月は「民芸品」だった。

福岡に住んで一年になる。佐賀新聞社福岡支社の記者として、経済、金融、国出先機関、航空、レジャー各記者クラブに所属し、佐賀県民、読者に届けたいニュース、話題を追う。毎日、見るもの、聞くものが新鮮だ。

いつも福岡あるいは九州取材しながら佐賀県が気懸かりだ。佐賀県のために役立つニュース、データはないか、他県に比べて遅れをとっていないか、気になる。

理事
大草 秀幸



「いえ、決して意識的に佐賀を外しているわけではありませぬ。これまでスカイホリデーのキャンペーンでも武雄市を随分と紹介していますし」。熊谷編集長の声は落ち着いていて真実味がある。それでもへこたれず「これから佐賀は資料も送ります。求められれば資料は送ります。佐賀新聞東京支社の記者も大いに活用下さい」。『よくわかりました。努力いたしましょう』と沈着な声。

佐賀を でて思 うこと

九経調が発行した六十年版九州経済白書「地域ストックの変容と課題」には、興味深い資料がいくつか詰まっていた。九州・山口各県一世帯当たりの年収、貯蓄をみると、いずれも佐賀県が一位。農家の貯蓄と借金をみると福岡に次いで貯蓄は二位、借金も五位と、なかなか堅実な家庭経済ぶりである。

しかし、これも見方を変えれば、しつかりため込んでおられる、有効な金の活用方法が下手ということなのかもしれない。主張すべきはきつちりと主張できる積極的な県民性を培っていききたい。ふるさとを一步出て痛感していること。

ひょっとしたら私の要望は、くだんの編集長氏には、いいがかりに聞こえたかもしれない。それでもいい。念を押しておきたかった。声を挙げなければ、それまでなのだから。

「佐賀もんは売り込み下手」―そのようだ。同じ商品を持っていても、売り込みをしないではないは大変。欲がないのか、引込み思案なのか。その両方かもしれない。よくよく考えてみれば置かれた立場への危機感が薄い。それは長年資ほどどに豊かな環境の中に置かれてきたことが「災い」しているようにも思える。

⇒山下武徳会長
久しぶりの再会に話もはずんで



竹輪をつまみ、伊万里に生まれた焼酎「のんのこ」を味わい、思い出話も弾むうちに、竹内市長を先頭に「伊万里行進曲」の踊りの輪が広がりました。昨年誕生したばかりの会ですが、和気あいあいとムードは最高！

福岡いまり会事務局（電092・771・4984）

山下武徳会長（山下石油社長、山下徳夫前運輸大臣の実弟）が「ふるさと」の伊万里を大切にしながら、これからも福岡での伊万里会をますます盛んにしていきたい」とあいさつ、特別来賓として出席の竹内通教伊万里市長も、福岡でこんなに沢山の伊万里の方々のつどいがあるなんて、すばらしい」と述べて、伊万里市のテレビピア指定、相次ぐ企業誘致など市政の現況を報告されました。

おくやみ ご冥福をお祈りします



前県人会副会長
故 吉田正勝氏

福岡市佐賀県人会の副会長の役を引き受けていた。いた前大分共同火力相談役の吉田正勝氏が、さる一月二十五日、急性心不全のため福岡市東区の九大病院で死去。七十四歳でした。自宅は同市東区香椎駅前三ノ三ノ三。告別式は同月二十九日に積善社福岡斎場で横山周一社長を葬儀委員長として大分共同火力社葬で行なわれました。

吉田氏は小郡郡小城町の出身。九州電力入社。昭和四十三年五月から常務取締役、五十二年六月から五十八年六月まで大分共同火力社長を務められた後、現職にありました。

生前はよく俳句をたしなまれました。告別式ではホトトギス同人の徳永寒灯氏から弔句が奉げられましたので紹介します。

いとませ 寒の厳しき 旅なれば



前佐賀新聞社社長
故 中尾清登氏

佐賀県言論界のリーダーとして年ごとにその存在が重さを増していた佐賀新聞社の前社長中尾清登氏が、昨年十二月十九日、佐賀県立病院好生館で肝不全のために死去。五十一歳。県人会顧問でした。告別式は翌年一月十三日に県体育館で佐賀新聞企業グループ合同葬で行なわれました。

昭和三十三年入社。常務（三十七年）専務（四十一年）副社長（四十七年）を経て、五十四年には会長に退いた故都昭氏の後を継いで社長に就任。

この間、新聞経営では四十二年、全国の日刊紙のトップを切った写真植字（CTS）化に成功、日本新聞協会賞を受賞した。また五十五年から佐賀整肢学園理事長を務めたほか、佐賀善意銀行頭取、ライオンズクラブのガバナールとしても活躍された。

踊りも飛び出して 130人つどう



福岡いまり会

「福岡いまり会」が三月八日に全日空ホテルで開かれたので、ちよつとのぞいてみました。ところが、とても盛況で広い二階万葉の間がいっぱい。

案内状がふるっていました。《やつと春らしゅうならしたナター》に始まり、《懐しの湯かけくじらやイワシの竹輪を用意します。沢山の方々のご参加を。つんのーで来てくしゃいね》

これで懐しの顔々がふわーと浮かんできたんでしょう。会員数四百七十余人のところ百三十人の出席でにぎわっていました。



このごろ 私は

は今でも脳裏に焼きついていま
ます。さん然と輝くネオンの下
昼間よりも明るい舗道は人の波
でパンクしそうです。中洲には
佐賀出身の有名ママさんが何人
もいらつしやるし、私もどこま
でできるか頑張らなくつちやと
気が引き締まりました。それから



中洲のどまん中、大通りの多
門ビル83で「誠」（誠実、真実
の意）というクラブ風スナック
をしています。佐賀にいる時の
私は、地元の高校、短大を出て
防衛庁に勤務する平凡な事務官
でした。それが結婚を機に生活
はガラリと一変しました。初め
て中洲を目のあたりにした光景

私の中の中州

吉川 公子さん
(東脊振村)



あつという間に十三年。かつて
の祭りのような賑わいはなくな
ったけど、やはり中洲は中洲。
人々を引き付け、疲れもウサも
さっぱり流してくれれます。そん
な偉大なる母のような中洲が大
好きです。お客様からは、学ぶ
ことが多く、日々感謝の気持ち
をもつて過ごしています。一人
でも多くの方とふれあうことは
人間の幅も広がります。

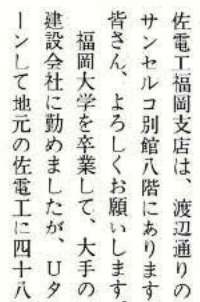
県人会は、そういう意味でも
すばらしい出会いの場でもあり
ます。皆様との輪を大きく広げ
てゆきたいと願っています（ク
ラブ風スナック誠経営、博多区
中洲三三四、多門ビル83）

「町づくり」に懸命

黒木 逸郎さん
(伊万里市)

県人会の皆さま、はじめまし
て。私は五十八年六月、十年ぶ
りに関西から九州へ帰ってきま
した。出身が伊万里だもんで、
まさしく「帰ってきた」といっ
うのが実感です。

住宅・都市整備公団九州支社
で、都市開発事業「町づくり」
のバイオニアとして頑張ってい



まず初めに私が勤務している
佐電福岡支店は、渡辺通りの
サンヤルコ別館八階にあります。
皆さん、よろしくお願いします。
福岡大学を卒業して、大手の
建設会社に勤めましたが、ウタ
ーンして地元の佐電工に四十八

充実した毎日

脇山 悟さん
(浜玉町)

私にお手伝いできることがあ
りましたら、ぜひ申しつけ下さ
い。お力になりたいと思います。
（住宅都市整備公団九州支社都
市開発部工事課長、



年に入社しました。根っからの
技術屋で、当社のモットーであ
る「工期内にいかに品質よくお
ります。そのような中で皆さま
のニーズに合った町づくりを、
と努力しておりますが、九州経
済圏の力とその声は、なお一層
の努力を私たちに要請している
かのようです。皆さまの情報を
ご提供いただけませんか。私た
ちもできる限りの情報を提供し
ます。

前回の県人会に初めて出席さ
せていただく予定でございました
ら、仕事の都合でできないと
でした。次回は必ず出席し、皆
さまの末席に名を連ねさせてい
ただくのを楽しみにしております。
私にお手伝いできることがあ
りましたら、ぜひ申しつけ下さ
い。お力になりたいと思います。
（住宅都市整備公団九州支社都
市開発部工事課長、

それが五十九年二月、営業に
配属され、果たして自分にでき
るだろうか、会社で迷惑をかけ
ないだろうかと悩んでいるうち
に二年が経ちました。多くの方
々と出会い、仕事を離れても付
き合いをさせてもらい、毎日充
実した毎日を送っています。（佐
電福岡支店、

「葉隠」に人の道
古賀 利治さん
(久保田町)

このごろ私が思うこと。青少
年非行、いじめの報道には胸が

痛む。こうした教育問題の根源
は、詰め込み授業に生徒がつい
ていけないことと学校の細かな
規則への反発でもあるようだ。
バス、電車の中で見かける高
校生の六、七割は帽子をかぶっ
ていないし、靴はかかとを折っ
たままでだらしがない。そばに老
人が立っていても、すまし顔で
席を譲る気配すらない。

校則も大事だが、もっと
社会道徳の教育を徹底する方が
社会のためになるのではないか
幸い学校教育全般の改革が審
議されている。この際、思い切
った転換を図ってほしい。佐賀
の「葉隠」の冒頭にある四哲願
には、人生の大道が示されてい
る。子供のしつけは特別に違っ
たしつけは必要ではないと説か
れている。

世の中、コンピューター、高
度技術社会といわれるが、それ
でも労働生産や家庭生活では人
間の頭脳による判断に頼るこ
ろが大きい。人それぞれ天分の
才を備えているもの。それに応
じてそれぞれの分野で人のため
世のために働くのが一番よい。
若者たちの精進を祈りたい。



一父である前社長が亡くな
れ、二十五歳の若さで新聞社社
長という社会的にも責任の重い
ポストに就かれたわけですが、
三ヵ月余を経ていかがですか。

中尾 父の闘病中から覚悟は
していました。もし、不幸な事
態になっても、長男としてし
っかり受け止められるように。
こうして引き継いでみると、改
めて父の新聞経営への思いと努
力が、ひしひしと感じられます。
今はとても充実した毎日を送っ
ています。

略歴

佐賀西高から早大
商学部へ進んで五
十九年卒業、佐賀新聞社入社と
同時に岐阜日々新聞社へ出向し
事業部所属。父清登前社長入院
後、昨年十一月に本社へ戻り、
十二月一日付で取締役に就任。
同月十九日に前社長死去、翌二
十日には社長に就任した。佐賀
広告センター、佐賀新聞サービ
ス社長、佐賀印刷社代表、肥前
観光社長、サガテレビ取締役、
佐賀善意銀行頭取、佐賀整肢学
園理事長。清登氏の長男、二十
五歳。趣味は茶道、オペラ鑑賞。



佐賀新聞社社長 中尾 清一郎氏

一日々、各界、各層の方々
と会われるでしょうが、若さゆえ
の苦労はありませんか。
中尾 もちろんあります。し
かし、年齢は仕方ないことで
すからね。むしろ若さを経営の
中のプラス面に生かそうと思
います。人に会うのは勉強になり
ますが、中には美辞麗句を並べ
て持ち上げる人もいます。私は
自分の耳に心地よく響く話は好
きでないし、警戒しています。

佐賀新聞社における佐賀新聞の
地方紙あるいは県民紙としての
役割についてどう考えますか。
中尾 業界トップを切つて四
十二年にGTS化を実現し、カ
ラー技術も最高水準との評価を
いただいています。百年の歴史
を持ち、県勢浮揚のために編集
事業ともに健全な展開を続け、
県民、読者のみなさんの信頼を
得ています。こんな会社の社長
になったことを誇りに思います。
し、佐賀県の発展なくしては、
佐賀新聞社の発展もないと考え
ています。

社の中核として経営責任を果た
さなければならぬ立場に。新
聞経営ビジョンは。
中尾 新聞だからといって特
別なことではないと思います。私
たちは県民、読者のみなさんに
対して常に謙虚であるべきだと
思います。商品価値は充実した
紙面であり、その商品価値を高
めていくことが、すなわち地域
の発展にも結びついていくので
はないでしょうか。
新聞社といえば編集のイメー
ジがわきますが、実にさまざま
な業務で構成されており、どれ
が抜けても新聞はできません。
みんなが思い切り働けるよう安
定した経営基盤をつくるのが私
の役目。新聞記者にしても看板
だけで仕事せず、謙虚であるこ
とを求めています。これは私自
身への戒めでもあるのです。
第六代社長、オーナー経営
三代目としても注目されている
わけですが。
中尾 後継者問題などで報道
機関が読者に迷惑をかけること
があつてはなりません。オーナ
ーが死んでも、新聞は揺るぎな
く出さなければ。その意味から
は世襲制というのは次善の策と
言えるのではないかと思います。
伸々と頑張ります。

板付ショッピングセンター(グリントア)協同組合

理事長 無津 呂 繁 美 (佐賀郡富士町出身)

- ・板付団地約2100世帯の大団地の真中に位置
 - ・21店舗を有するなんでも揃う総合ストア
 - ・お買物は当ストアで!!
- 御来店をお待ち致しています

大駐車場完備

☎ 585-3349

●有田で国際シンポ

佐賀県は今秋、陶器の里・西松浦郡有田町でフラインセラムックスの国際シンポジウムを開く。十一月中旬の三日間、国内外のトップクラスの研究者、民間企業の研究開発スタッフら約二百人を集め、九州陶磁文化館をメイン会場に基調講演、特別講演、研究発表、意見交換などで構成する。

シンポジウムのテーマは、わが国の陶磁器発祥の地である有田とニューセラの集積が進む新しい有田をアピールする意味合

次郎物語 を映画化

下村湖人の名作「次郎物語」がキネマ東京から映画化されることになり、佐賀県内から子役が公募された。「ボク、次郎役やってみたい」「ぜひ映画に出たい」――さすが現代っ子。フタをあけてみると、来るわ、来るわ、なんと応募者千七百七人。三月九日には

佐賀県たより

NEWS FROM SAGA

佐賀県たより

いから「トラディション（伝統）アンド・クリエイション（創造）イン・セラミックス・アリアタ86」が有力となっている。

のんのこ

「今の気持ちを問われたら、のんのこ、のんのこ……」

こんな歌の流れるテレビコマーシャルをご存知のはず。これは昨年、伊万里市に誘致された宗政酒造が、九州はもろろん関



子役募集に1700人

書類審査をパスした百二十一人の面接による審査会が開かれた。主役の次郎をはじめ採用の子役は二十人前後。三月末には正式決定となりそうだが、さてどの子が次郎に――



佐賀で国際熱気球

佐賀市は六十四年の第九回熱気球世界選手権大会開催地に名乗りを上げていたが、三月十八日にパリで開かれた国際航空連盟（FAI）の国際熱気球委員会会議で、ライバルの英国、カナダ、インドを退け、佐賀市に決定した。市制施行百周年記念行事最大のイベントとして誘致に全力を挙げてきた悲願が果たした。

伊万里市に郵政省のテレトピア

伊万里市が郵政省のテレトピア構想（未来型コミュニケーションモデル都市構想）指定を受けた。コンピュータや既設の電話網、市内の有線テレビ、さらにニューメディア、エレクトロニクス技術の駆使して、農業の生産、流通、陶磁器など地場産業の活性化、人材育成、住民サービスなどに活用して未来型の都市を他都市に先駆けて実現しようという構想。

市は総務部に「テレトピア推進室」を設置、二月にはNIT、リコー精器と同市の三者とで構想実現に向けて技術協力の協定書に調印した。

武雄市長に石井氏

二月二十三日に行われた武雄市長選で、新人の前県議石井義彦氏（無所属）が、現職の牟田勝輔氏（自民）を千三百七十五票差で破り初当選した。両氏は八年前にも争っており、市を二分しての宿命の対決だった。また一月十九日の鳥栖市長選では、現職で自民、民社党推薦の原忠実氏（自民）が五選。三養基郡三根町長選挙は一月七日、現職井樋悟氏（自民）が無投票三選。



佐賀に文化の殿堂

佐賀市が六十三年度秋完成を目指す市総合文化会館は、設計に当たって数多くのアイデアを反映させるために指名設計競技方式を採用、大手七業者によるコンペを行ったが、先ごろ当選作品が発表された。

当選したのは大阪市に本社を持つ東海建築事務所の基礎設計。大ホールは、地下一階から三階までの四階からなり、客席は一、二階で千八百五十九席。中ホールは八百一十一席、はかに大小のリハーサル室、練習室三、会議室大中小四室、情報コーナーなど総面積一万四千九百四十八平方メートル。

同事務所は、神戸市文化ホール、吹田市文化ホールなど手掛けている。秋には設計を終え、着工に向ける。

波戸岬で珍魚

一月末の話でちょっとニュースの鮮度は落ちるが、東松浦郡鎮西町の波戸岬で呼子の漁師飯田初見さん（五五）が、長さ四メートルの写真のような珍魚を釣り上げた。全身銀色、背ビレはピンクで十二、三センチ。

県水産試験場で調べてもらったら「リュウグウノツカイ」という深海魚。日本で採取されたのはわずか二十四例だけ。標本にして残すことにしたが、飯田さんは「ギラギラ光る大きな目が見えたのでびっくりした。三



十年、漁をやっているがこんなのは初めて

唐津市に短大計画

唐津市に短大新設の計画が動き始めている。これは佐賀市の学校法人佐賀電波学園が計画しているもので、国際化、情報化時代に対応する学科を持つ文科系の短大。開校は二、三年後の見通しだが、県も「できる限り協力したい」との歓迎姿勢。

計画では唐津市鎮、国鉄唐津駅近くの市有地二万平方メートルに建設を予定。定員二百人程度で、中国、韓国語を習得できる国際

文化関係学科と秘書業務や商業簿記を習得できる情報処理関係学科の二科。唐津市は学園都市構想を掲げ、以前から大学誘致に力を入れていた。

佐賀に新銘菓誕生

佐賀県菓子工業組合（理事長、元石泰司・栄城堂社長、四百六人）が「佐賀を代表する銘菓をつくらう」と取り組んでいた新製品ができ上がった。菓子、パッケージともに佐賀の伝統、風土をデザインしたもので、香月知事が「おもいで佐賀」と命名した。早ければ六月にも発売



される。

新製品は県の伝統芸能の面浮立の面を形取った焼きまんじゅう。十個入り千円、十五個入り千五百円、二十個入り二千円の

バイオでサトイモ新品種

サトイモの品種改良研究を進めている佐賀大学農学部・そ菜花き園芸教室「宮崎貞包教授」は、ミズイモやタケノコイモなど十品種一系統を開花させ、これら異品種を交配させて新しい種子を取り出すことに成功した。花のほとんど咲かないサトイモを、これだけたくさん開花させたのも驚きだが、それから種子を取ったのは国内はもとより世界でも初めて。これらの種子からは、すでに草丈三、四十センチに生長したものもあり、先ごろ県農業試験場に完成したバイオ研究用ハウスに移植されている。サトイモの需要は多く、九州でも約七千の栽培規模。多収性品種づくりを目指す。

富士町の団地完売

佐賀郡富士町の南部工業団地にIC関連の計測機器製造会社の進出が決まり、これで同団地は四社の進出で用地四・二haが完売となった。富士町土地開発公社は、隣の福光物産関係者所有の四haの買収に乗り出す。

本欄のニュース、話題はすべて佐賀新聞社より提供いただきました。

佐賀県たより

NEWS FROM SAGA

佐賀県たより

参加し、九死に一生を得る思いを体験しながら無事帰還、佐世保鎮守府海軍人事務勤務中に終戦を迎えました。終戦後、鎮守府は復員局と名称が変わり、その際、復員局人事課佐賀支部勤務となり、二十一年七月に福岡県庁へ。



県人会理事 久保 悦次氏



毎年の同窓会楽しみ

を歴任、五十四年三月に定年退職となりました。久留米市の聖マリア病院に再就職しましたが、五十八年にはこちらも退き、現在、居住する大宰府市の国分で民生児童委員や公民館活動のお

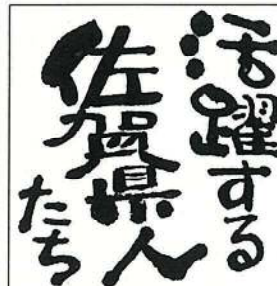
手伝いをする毎日です。三人の息子（長男―正興電機北九州営業所長、次男―県教委体育課、三男―千葉で自営業）も独立して孫が六人、大宰府では妻（五〇）との二人暮らしです。戦後、福岡に移り住んでふると若木は遠くなりましたが、毎年の同窓会が楽しみです。若木小の同窓会は毎年、全クラス、卒業生すべてが二月二十六日開

催と決まっています。ことしも出席し、旧交を温めてきました。有田工も三年に一度で、昨年開いたところ。県人会とは、昭和五十二年に福岡県庁職員佐賀県人会を結成し、初代会長を仰せつかり、福岡市佐賀県人会に県庁支部として加入の際にお世話いただいたのが、付き合いの始まりでした。しかし、県人会のために何らのお手伝いもできずにいたところ、一昨年春、高田副会長、溝上代表理事より県庁関係OB代表として理事就任を懇請され、常任理事の重任を預かって早くも二年を経過しました。今後とも微力ながら県人会の発展に努力したいと思っております。年を重ねるに従い、健康管理には気を配っています。世界一の長寿国ニッポンですが、働き盛りの五十歳前後で成人病のために倒れる人が多いと言われます。そこで「脳卒中で絶対に倒れない飲み物」の作り方を紹介します。

鶏卵一個の白味、ふきの葉の汁小さじ三杯、清酒小さじ三杯、梅漬（シソを入れる前のもの）一個の梅肉。以上を前から順番によく混ぜて作ります。一生に一度飲めばよいと言われます。お試し下さい。

私の履歴書

ふるさと、若木温泉のあった武雄市若木町です。昭和十二年、県立有田工業学校から海軍へ。軍歴は日支事変参加を皮切りに、海軍経理学校を修業し、練習艦隊で日本列島とハワイ・南洋群島など太平洋を遠洋航海。現在ではとても不可能な、無銭旅行。だったと追想しています。戦争中は、ハワイ・ミッドウェイ海戦や太平洋・南方海域作戦に



昭和二年七月、伊万里市二里町生まれ。伊万里商業から山口経済専門学校（現山口大経済学部）を卒業。父は伊万里銀行（佐賀銀行の前身の一つ）、兄は佐賀銀行と「銀行一家」で、「お前も銀行に入れ」と周りから勧められたが、長崎の川南造船所に就職した。「性に合わないからやめよう、銀行は」造船所の先輩に、以前、毎日新聞社にいた人がいて、「おい、

毎日が放送会社を作るぞ。君も来んか」と誘ってくれた。二十六年六月にRKB毎日放送が創立され、同年十月に入社した。経理一筋だった。四十七年には経理部長から社長室次長へ。

さらに社長室長を務めて昨年六月、系列会社のRKB興発社長に就任した。「RKB毎日放送も三十五年の歴史の中で、今が一番つらい

RKB興発社長
吉永 生一さん
(伊万里市出身)



建て直しに奮闘中

石丸マネキン紹介所長
石丸クミさん
(佐賀市出身)



登録マネキン200人

安。です。職業安定法に従って、紹介料はマネキンに支払われる賃金の二割、受け付け手数料が一件四百円。これが紹介所収入のすべてです。」昭和十六年十二月、佐賀市嘉

瀬町生まれ。女二人、男二人、四人兄弟の末娘。佐高卒。家業は製めん業だったが、建築詐欺に遭って一家は追われるように福岡へ。

時だね。三十年といわれる「企業寿命」はクリアしているが、これからだ。RKB社員として私は私が一番の古株になってしまったよ」RKB興発（天神三丁目）は四十四年に設立された。宅地造成、マンション分譲、旅行代理業と盛んだったが、オイルショック後は業務の縮小を余儀なくされた。現在は本社土地などの管理はじめ貸ビル、不動産仲介業務で再建に奮闘中。毎朝のジョギングとゴルフ（H18）が健康法。妻良子さんと九州芸工大在学の長男、西独在住の長女。（大橋三二七―二九）「一足先に姉が石丸マネキン（天神二丁目）の事務をしていたので誘われて私も。初代所長が独身女性で、私は養女（旧姓中島）になりました。所長が若くして亡くなったので後継することになったんです」独身。「別に独身主義者というわけではないのに、仕事に明け暮れているうちに」と。マネキン紹介所は福岡市内に十一社。石丸マネキンは昭和三十三年に労働大臣の職業紹介事業許可を得て開業しているが、現在では登録マネキンは二百人を超え、関東、関西までも派遣している。（天神二二―一〇）

IBMシステム/36

IBMマルチステーション 5540.5550.5560

IBM製品の販売・システム開発全般

IBM特約店 昭和コンピューター販売株式会社

代表取締役 金子 宣嗣

福岡市中央区天神4丁目1-6 電話 (092) 781-5550

一心のこもった
温い応待



福岡昭和タクシー株式会社

代表取締役 金子 宣嗣

新たに
「自動車運行管理
請負業」もスタート!!

本社 / 福岡市中央区渡辺通2丁目4番1号

TEL (092) 761-2531

今宿 / (092) 806-0179 前原 / (0922) 2-2234

新会員ご紹介

(敬称略)氏名、連絡先、電話番号、職業、出身地の順

脇山 悟

呼びかけます



市川 今朝雄さん (80歳)

福岡市佐賀県人会は、昭和三十年ごろ発足しました。福岡市およびその周辺に任んでおられる佐賀県出身の方であれば、だれもが気がねなく入会できます。政治的な関係はまったくないし、いわば、同じふるさとを持つ者が集まる庶民の会、親睦の会です。

県人会発足当時の趣意書によれば、「会員相互の親睦を図り、会員子弟の就職のあつせん、結婚の相談仲介」云々と、いろいろ盛りられています。ですから今更申すまでもなく、佐賀県出身者でご存知の人が福岡へ転入してこられたら、こうした親睦

▽佐電工▽浜玉町
木村 正行

▽飯田産業▽佐賀市
東 重治 (会社)

711・1831▽竹中土木
中川 巖

▽鹿島市
中 崇

川島 俊雄

▽太良町

西岡 正義

▽九州電力▽佐賀市

の趣旨を説明され、一人でも多くの方に入会を勧めてほしいと思います。
先に発行されました会員名簿によると、六十年六月現在の会員数四百六十二名とありました。しかし、会報によれば福岡市とその近郊に居住しておられる佐賀県出身の方は九万人から十万人にも達すると記してあります。

が佐賀であれば末永く、佐賀郷土人の一人として愛郷の精神を保持していただきたいと念じます。
私は明治三十九年、佐賀郡富士町生まれの古老です。商業学校を家庭の事情で中退、社長が郷土出身の大阪の大手製薬会社に昭和三年から働きました。同郷の従業員も多く、「ヤサン、ドコカラ米タコ」と社内

県人会に若者達を愛郷心いつまでも

この数字から見ると、会員四百六十二名は余りにも少な過ぎます。せめて千五百名から二千名ぐらいの参加があつても不思議はないと思います。福岡に生まれ、福岡の小中高校、大学を卒業され、福岡に就職している諸氏にとって、親の郷里。佐賀県には関心が薄い人もたくさんおられます。しかし、祖先

で佐賀がハバをきかせていました。寮ですぐに打ち掛け、佐賀に生まれたことを感謝したものでした。昭和十年、リコー(当時は理研光学工業)の市村清社長に迎えられ、福岡支店に勤務するようになり、以来五十一年の福岡住まいです。現在はいりこり製品を専門に扱う会社を経営しています。

入会の勧め

県人会では毎年恒例の行事として、新年懇親会、春の年度総会および懇親会を催し、会員の親睦、交流を図っています。また会員には年三回発行の「会報むつごろ」をお届けします。未加入県出身者に入会を勧めて下さい。入会あるいは紹会の問い合わせは、下記の県人会事務局へどうぞ

福岡でも県人会は、堅粕支部も併せ心の支えていた。大濠公園の運動場で入会の年に催された県人会大運動会の盛大さは、忘れもしません。開催には青年会員が大活躍でした。
米たるべき二十一世紀は青年諸氏が担う時代。県人会への若者の入会を呼びかけます。

編集デスク

三月下旬の東京にひとときり、忘れ雪。都民の足が奪われて大騒動のニュース。それより数日前、パリの国際航空連盟の国際気球委員会会議場から深夜の佐賀市に国際電話が入り、「64年熱気球世界選手権大会」の開催が佐賀市に決定したとのホットニュースが飛び込んだ。

佐賀平野の熱気球は、「むつごろ」の前号表紙に紹介しました通り、大人も子供も胸躍る夢の青空散歩。

そのころ、「むつごろ」の編集は「ドロナワ式」に進んでいたわけだ。泥棒捕えて縄をなうどころか、相手が切羽詰まっていたことが賢明なる会員諸氏には、よくわかりでしょう。皆さまの投稿をお待ちします。

会報むつごろ

昭和61年4月5日発行
福岡市佐賀県人会
(発行所) 佐賀市上 嘉幸
福岡市中央区天神4丁目1-6
昭和セントラルビル内(〒810)
☎ 092-761-8253
制作 (有) タナカ製本印刷所
☎ 092-711-2552